

安全ニュース

飛石事故が急増！事故防止はご自身の安全の為、センターの社会的信用の為！

飛び石事故は今年度4月～8月迄に42件と急増しています。（去年同期件数36件）

各センターの安全委員会や事務局の懸命な努力にも関わらず事故の発生件数は依然として高い件数となっています。

発生場所は、駐車場、建物周囲、空地、公園、住宅地、道路等様々です。これら駐車場や隣接地に停めてある車、作業場所や隣接している建物の窓や扉のガラス等を損壊しています。また飛び石により走行車両の窓ガラスを破損した事故も発生しています。

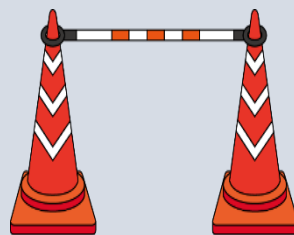


(一社)日本農業機械工業会発行「刈払機の正しい使い方」より

特に走行車両への飛び石は人命に関わる場合もあるため、事故防止対策を確実に実施しましょう。

主な発生原因

- 下見、チェックシート記載による事前情報の確認不足。
- 防護ネット等の未使用。
- 飛散防止用コンパネや飛散防護ネット、安全コーン等の設置不備。
- 飛石が発生しにくい刈刃の不使用。
- 機械の操作誤り。



事前の対策

- 事前に十分に就業場所の安全確認や周囲の状況把握を行う。
- 仲間と適切な間隔を保って、整然とした作業
- 刈払い機の適切な位置に飛散防護カバーを取り付ける。
- 刈払い対象物に適した刈刃を使用しましょう。



作業上の対策

- 道路や人家付近、人及び車の出入りする敷地内においては、作業中の標識や見張りを立てるとともに、飛散防護ネットを必ず使用する。**(見える化)**
- 対象物を刈払う刈刃の位置は、安全に切断できる部分で行う。
- 刈払い機を大振り、往復刈り、刈刃でたたく、腰より高い位置での刈払い等をしない。
- 刈払い幅は、約1.5m程度とし、刈幅の中央よりやや左側に立って、右から左に刈払うこと。また、斜面下方に倒しながら刈り進み、刈残りしないように刈払った分だけ進むこと。
- 十分な間隔をとり、上下作業にならないように作業をする。傾斜地における作業時はスパイク着用。



事故を防ぐため

- ①就業当日に行う安全ミーティングにおいて確認、作業用具の点検、安全装備使用の確認、就業場所や作業に潜む危険要因を発見、把握、解決する「危険予知の班行動」、発見した危険の「見える化」、作業手順の確認等を実施すること。
- ②服装・履物・保護具は、作業に適したものを着用しましょう。
- ②準備運動は必ずしましょう。
- ③使用する保護具や器具類の確認と点検をしましょう。（防護カバー、ネジの確認、刃刃に欠けやひび割れがないかどうか等）
- ⑤作業別安全基準を再確認しましょう。
- ⑥刈払機の使用について、会員の技能・技術レベルの向上。



令和5年度8月実施安全適正就業パトロール時 好事例

会員に向け着脱式フルフェイスガードを販売

夏場の暑い時期対策として、着脱式フルフェイスガードの紹介を行い、会員へ普及させ、会員からも大変好評であった。

一般的なヘルメットに装着できるシールド。あごや首まで飛散物からガードします。シールドは上げ下げが可能です。

クリアーシールドと金属メッシュの2枚が付属。現場の状況に合わせて付け替えます。

金属メッシュシールド & 透明シールド



令和4年度
安全就業標語

佳作

『ひとごとと任せず頼らず危険予知』

小諸北佐久シルバー人材センター 堀内 昭夫さん

公益社団法人 長野県シルバー人材センター連合会

〒380-0841 長野市大門町 51 番地 1 柏与ビル 3 階

Tel : (026)237-4680 Fax : (026)237-5665